

◆ 練馬都税事務所長賞 ◆

「税を見直したあの日」

練馬区立大泉北中学校 3年 黒光 晨

「税」と聞いて、すぐに思い浮かんだのは消費税だ。最近、進路について考える中で所得税なども身近になっている。しかし、僕の心に最も強く印象に残っている税は、実は固定資産税だ。理由は単純で、中学二年の職場体験で都税事務所に行ったからである。

職場体験に行くまでは、固定資産税の仕組みはおろか、名前すらもよく知らなかった。そのため、初めてその説明を聞いたときは複雑で難しそうだと感じた。しかし、固定資産の種類や計算方法を一つ一つ噛み砕いて教えていただいたことで、次第に税を学ぶことが面白く思えてきた。

特に面白かったのは、償却資産の評価額を求める体験だ。償却資産とは、固定資産のうち土地と家屋をのぞいたもので、お店にある家電や会社で使うパソコンなどがあてはまる。土地や家屋と違い、所有者がはっきりせず、年々価値が下がっていくため、計算が複雑になる。だが、説明や資料を丁寧に読み解き、計算を進める作業は、さながらパズルや謎解きのようで楽しかった。

一方、もう一つ印象に残っているのは、フィールドワークだ。都税「事務所」というのだから、事務仕事ばかりやっているのだと思っていた僕には驚きだった。このフィールドワークでは、特例として課税が行われない「非課税」の土地について、本当に条件を満たしているかを確認する。例としては、学校や道路、お寺や神社などが挙げられる。実際に調査に同行させていただき、税はけして無闇に課されているわけではなく、しっかりとした調査に基づいて課されているのだと実感した。

世の中では、手続きが面倒、増税が家計に響くといった、税のマイナス面ばかり見られている。実際、この体験前までは僕もそうイメージしていただろう。だが、この体験を通して、そうしたイメージは払拭された。税を納める理由を再確認し、丁寧な調査と確認作業のもとに課税が行われていることを肌で感じる事ができたからだ。

今後人生を歩む中で税と向き合う場面はどんどん増えていく。その時は、体験で得た知識も使い、税のことをよく知って正しく納めるようにしていきたい。また、信頼できる情報を集めて、税に対する意見も持てるようにしたい。